

2024年7月30日

青森の温暖化対策を考える会 プレスリリース

県民1000人対象に気候変動に関する意識調査を実施 - 9割超が気候変動・温暖化不安視も市民参加の機会に期待 -

県内で温暖化防止や脱炭素社会実現に取り組む市民団体「青森の温暖化対策を考える会」（中堀一弥代表）は7月30日、同月4～11日に県内在住の18～79歳の男女1000人を対象にオンラインで実施した、気候変動に関する意識調査の結果を発表しました。

調査では、**有効回答の90%以上が気候変動や温暖化について不安を感じたと回答**。また**85%が将来世代への影響を懸念**していると答えており、**多くの人**が気候変動や温暖化について危機感を感じていることが分かりました。

一方で、**問題解決について70%近くが「考えたことはあるがどうすればいいかわからない」と回答**するなど、個人ができる行動や対策について具体的にイメージを持ちづらい人が多いことも明らかとなりました。

調査について

対象：青森県在住の1000人を対象に18～79歳男女で概ね10代刻み

方法：楽天インサイト株式会社に委託し、オンラインで実施

期間：2024年7月4日（木）～2024年7月11日（木）

主な質問項目と調査結果

Q 気候変動・温暖化の影響について、どう感じますか？

A 「熱中症・感染症」が57.5%と最多。次いで「コメ、リンゴ、野菜の収量や品質」（55.2%）と「ホタテやスルメイカなどの水揚げ量」（50%）も高く、農林水産業への影響を心配している人も多かった。

Q 青森での気候変動・温暖化の影響についてどう感じますか？

A 「とても心配」「ある程度心配」の合計が94%にのぼった。気候変動の影響を懸念する県民が非常に多いことが明らかとなった。

Q 気候変動・温暖化について、将来世代が受ける影響をより考えていく必要があると思いますか？

A 「おおいに・ある程度ある」との回答が合わせて85%にのぼった。

Q 温室効果ガスを減らす街づくりをしていくために、市民が参加できる機会について、あなたの考えに最も合うものはどれですか？

A 「市民参加の機会があまり・ほとんどない」との回答が合わせて51.6%となった。また、温暖化に対して自分にできることは何か考えたことはあるかとの質問については、68.2%の人が「考えたことはあるがどうすればいいかわからない」と回答し、危機感の高まりに対し、市民参加の機会や自分たち自身ができる行動について課題を感じる人が多いことが明らかとなった。

「青森県民の気候変動に関する意識調査」 **全調査結果はこちら**
当会ホームページでも公開 <https://aomoriclimateaction.com>
【検索】青森の温暖化対策を考える会



青森の温暖化対策を実現する会 代表 中掘 一弥（なかほりかずや）

- ・本調査により、多くの青森県民が、地球温暖化・気候変動に対し潜在的な危機感を持っていることが明らかとなりました。
- ・気候変動問題に対処するためには、青森県に暮らす私達が、気候変動による県内での影響について主体的に考え、何を目指し、どんなことができるのかを県民同士で話し合い、具体的な行動につなげていくことが重要であると考えています。
- ・当会としては、例えば8月31日に市民フォーラムを開催するなど、県民の皆さまが気候変動問題を考えるきっかけになるような活動を行っていきたくと考えています。

公財 地球環境戦略研究機関（IGES）上席研究員 藤野 純一（ふじのじゅんいち）

- ・日本列島の最北端にある青森県は、海水温の顕著な上昇など、気候変動の影響をより受けやすい地域で、県民の意識にもそれがよく表れた結果となった。
- ・90%を超える県民が温暖化対策を望んでおり、85%以上の県民が将来世代が受ける気候変動影響を心配しており、さらに50%以上の県民が温暖化政策の優先順位をあげることを望んでいる。一方で、約70%の県民が具体的に何をしたらよいかわからないとのことだったので、県や市町村、地元企業・金融機関、市民団体等と連携して、温暖化対策を進めて行くことに協力していきたい。
- ・たとえば、本日7月30日（火）15時から、県庁会議室を会場に、オンラインでも参加できるセミナー「市民の力でゼロカーボン！ー長野県上田市の市民が始めた、確かな取り組み」（講師：NPO法人上田市民エネルギー 藤川まゆみ 理事長）を実施するので、お時間ある方は是非ご参加してほしい。

<本件に関するお問い合わせ>

青森の温暖化対策を考える会 中掘 一弥

電話：090-5184-0874

メール：55891co2zero@gmail.com

